

問1 鉄鋼の生産に必要なエネルギー効率を比較した際、世界平均を100とした推計値（2010年時点）において、日本（85）や韓国（88）は、中国（99）よりもさらに低い数値を示しています。中国と比較した際の日本や韓国の鉄鋼業の状況について、正しい説明を選びなさい。（2018年 京都公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 中国よりも早い段階から環境対策や省エネ設備の投資を進めており、極めて高いエネルギー効率を実現している。 | 2. 中国よりも鉄鋼の総生産量が多いため、スケールメリットにより1単位あたりのエネルギー消費が少なくなっている。 | 3. エネルギー効率を向上させることよりも、安価な電力を大量に消費して安価な鉄鋼を増産することに特化している。 | 4. 国内の鉄鋼需要が中国よりも少ないため、エネルギーを消費する製錬工程のほとんどを海外に移転している。 |
|--|--|---|--|

問2 世界の諸地域の地形に関する記述のうち、インド北部に位置する広大な高地や険しい山脈が、周辺的环境や生活に与える影響や背景として正しいものはどれですか。（2020年 鹿児島県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. プレートの衝突によって形成された標高8000mを超える山脈が、北側からの冷たい空気を遮り、南側の地域に高温多湿な気候をもたらす要因となっている。 | 2. 安定した古い地層からなる広大な高原であり、大規模な機械化農業や牧畜が広く行われている。 | 3. 氷河による浸食によって形成された複雑な海岸線（フィヨルド）が発達しており、古くから天然の良港として利用されている。 | 4. 環太平洋造山帯の一部として火山活動が活発であり、豊富な地熱エネルギーを利用した発電が地域の主力産業となっている。 |
|---|--|--|---|

問3 日本、アメリカ、中国、オーストラリアなど、太平洋を取り囲む国や地域が参加し、貿易の自由化や経済的な連携を強めることを目的とした枠組みの略称はどれか。（2016年 北海道公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|----------|----------|--------|
| 1. APEC | 2. ASEAN | 3. NAFTA | 4. TPP |
|---------|----------|----------|--------|

問4 中国における農産物の生産地域の特色について述べた文として、自然環境（気候）との関係からみて最も適切なものを選びなさい。（2024年 福島県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 降水量の多い長江流域など南部では稲作が盛んで、比較的乾燥した華北平原など北部では小麦の生産が盛んである。 | 2. 寒冷な気候である北部で米の二期作が行われ、温暖な南部で小麦の栽培が集中している。 | 3. 内陸部の乾燥地帯で大規模な稲作が行われ、沿岸の湿潤な地域で小麦の輸出用栽培が行われている。 | 4. 地形が平坦な全土で米と小麦が均一に生産されており、地域による明確な作り分けは見られない。 |
|---|---|--|---|

問5 世界の諸地域の土地利用について述べた次の文のうち、インドの大きな特徴として正しいものはどれですか。主要な国々の土地利用を比較した統計において、インドは農地面積約1億7960万ヘクタールのうち、その大部分である約1億6936万ヘクタールを特定の用途が占めており、これは他国と比較しても際立って高い割合となっています。（2019年 埼玉県公立入試 類似）

- | | | | |
|-----------------|------------------|-------------|------------------|
| 1. 耕地・樹園地としての利用 | 2. 牧草地・放牧地としての利用 | 3. 森林としての利用 | 4. 砂漠や氷雪地などの非農耕地 |
|-----------------|------------------|-------------|------------------|

問6 東南アジアの国々の中で、人口は約530万人と周辺のフィリピンやベトナム、マレーシアに比べて少ないものの、経済的な豊かさを示す「1人あたりのGDP（国内総生産）」がこれらの国々を大きく上回り、最大となっている国はどこですか。また、その国の輸出入において第1位の貿易相手となっている国を答えなさい。（2015年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|------------------------|
| 1. 国名：シンガポール、貿易相手国：マレーシア | 2. 国名：シンガポール、貿易相手国：日本 | 3. 国名：フィリピン、貿易相手国：日本 | 4. 国名：マレーシア、貿易相手国：ベトナム |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|------------------------|

問7 インドネシアの輸出構成の変化について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。なお、1980年の輸出総額に比べ、2016年の輸出総額は約15倍に拡大しているものとします。（2019年 山形県公立入試 類似）

- | | | | |
|--|--|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 原油や天然ゴムの割合が低下し、機械類が最大の輸出額を占めるようになった | 2. コーヒーや天然ゴムなどの農作物の輸出割合が、輸出全体の半分以上を超えた | 3. 資源価格の高騰により、1980年当時よりも原油の輸出構成比が高まった | 4. 国内の工業力が低下したため、製品の輸出を止めて原料の輸出に専念した |
|--|--|---------------------------------------|--------------------------------------|

問8 インドネシアの産業構造や輸出に関する記述として、最も適切なものはどれですか。（2021年 新潟県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------------------------------------|---|---|--|
| 1. 航空機や人工衛星などの高度な精密機械が、輸出額の大部分を占めている。 | 2. 石炭などの地下資源や、アブラヤシから採れるパーム油などの一次産品が主要な輸出項目である。 | 3. 広大な国土を活かした小麦やトウモロコシなど、大規模な穀物農業が産業の中心である。 | 4. 冷涼な気候を利用した野菜や果実の栽培が盛んで、その輸出額が石炭を上回っている。 |
|---------------------------------------|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中国よりも早い段階から環境対策や省エネ設備の投資を進めており、極めて高いエネルギー効率を実現している。	日本や韓国は、1970年代の石油危機などをきっかけに、エネルギー価格の高騰に対応するため世界最高水準の省エネ技術を開発・導入してきました。中国も世界平均よりは高いエネルギー効率を誇っていますが、膨大な生産量を支える過程で旧式の設備も残っているため、数値上は日本や韓国の方がより高い効率（より低い消費エネルギー量）を示しています。鉄鋼生産量において中国は世界1位ですが、エネルギー効率の面では日韓がリードしているのが現状です。
問2	答え 1 プレート衝突によって形成された標高8000mを超える山脈が、北側からの冷たい空気を遮り、南側の地域に高温多湿な気候をもたらす要因となっている。	ヒマラヤ山脈は、インド・オーストラリアプレートとユーラシアプレートがぶつかり合う境界に位置し、現在も隆起を続けています。この非常に高い山脈が障壁となることで、インドをはじめとする南アジアにモンスーンの影響による雨をもたらす一方、山脈の北側にあるチベット高原などは乾燥した気候になるという、大規模な気候区分を決定づける要因となっています。
問3	答え 1 APEC	「Asia-Pacific Economic Cooperation」の略称であり、アジア太平洋地域の持続的な経済発展を目的としています。この枠組みには、日本やアメリカ、中国、ロシア、オーストラリアなど、太平洋沿岸の多くの国や地域が参加しています。ASEAN（東南アジア諸国連合）と混同しやすいですが、より広範囲な太平洋周辺国を含む点が特徴です。
問4	答え 1 降水量の多い長江流域など南部では稲作が盛んで、比較的乾燥した華北平原など北部では小麦の生産が盛んである。	中国の農業は、年降水量の違いによって生産地域が明確に分かれています。一般に「南稲北麦」と呼ばれ、温暖湿潤な南部（長江流域以南）では米の生産が、年降水量が少なく乾燥している北部（華北や東北地方）では小麦などの畑作が盛んに行われています。
問5	答え 1 耕地・樹園地としての利用	インドは世界有数の農業国であり、国土面積に占める農地面積の割合が非常に高いのが特徴です。特に、農地の中でも家畜を飼育するための牧草地などではなく、作物を栽培するための「耕地・樹園地」が大部分を占めている点が他国にはない強みです。これは、広大なヒンズースタン平原やデカン高原など、耕作に適した地形とモンスーンによる降水がもたらす恵みを活用し、古くから多くの人口を支えるための食料生産を行ってきた背景があります。
問6	答え 1 国名：シンガポール、貿易相手国：マレーシア	シンガポールは都市国家であり、東南アジアの主要国の中では人口規模が最も小さい部類に入りますが、中継貿易や金融業、高度な工業化によって非常に高い経済水準を実現しています。その結果、国の経済規模を人口で割った「1人あたりのGDP」は周辺国を圧倒しています。また、地理的に隣接し、歴史的にも深いつながりを持つマレーシアが最大の貿易相手国となっており、ヒトやモノの往来が極めて活発です。
問7	答え 1 原油や天然ゴムの割合が低下し、機械類が最大の輸出額を占めるようになった	1980年時点では原油（約24%）や天然ゴム（約16%）が輸出の主力でしたが、2016年には機械類が約41%を占めるまでになりました。これは、外資系企業の工場進出や国内産業の育成によって、付加価値の高い工業製品を輸出できる体制が整ったことを背景としています。
問8	答え 2 石炭などの地下資源や、アブラヤシから採れるパーム油などの一次産品が主要な輸出項目である。	インドネシアは熱帯の気候と豊富な地下資源に恵まれており、かつては石油輸出国機構（OPEC）に加盟していた時期もあるほど資源が豊富です。現在は石炭の輸出額が非常に大きく、またアブラヤシから生産されるパーム油は、世界最大の生産量を誇っています。選択肢にあるような航空機（精密機械）や、大規模な穀物農業、冷涼な気候による果実栽培は、インドネシアの主要な産業特性とは異なります。